

壁紙施工要領書 17

- 塗装壁紙 -

【該当品番】(2018-2022 Lilycolor Materials)

LMT-15271～15273

■特長

- ・ガラス繊維にあらかじめアクリル樹脂で塗装した商品です。現場での塗装が必要なく施工するだけで塗装仕上りになります。

■下地調整

- ・施工後の、下地の不陸の目立ちを避けるために下地面はできるだけ平滑に仕上げるようにしてください。
- ・下地面に汚れやチョーク等による文字などが残っている場合は除去するようにしてください。
- ・パテは下地と同色のものを使用するようにしてください。
- ・張り替えの際、裏打ち紙が下地面に浮いた状態で残っている場合は、必ず剥がしたあと施工するようにしてください。浮いた所の上で施工しますと、目開きの原因になります。

■接着剤

- ・接着剤は原液タイプをお薦めします。希釈タイプ使用の場合は、糊：水＝10：6～7にエチレン酢ビ系ボンドを10～20%程度を目安に混合してください。また、塗布量は多めにしてください。（このエチレン酢ビ系のボンドを混合しますと、接着剤の乾燥が早まりアイハギの発生時間も早くなりますので注意が必要になります。）
- ・濃度の薄い接着剤は紙に吸い込まれてしまい、接着力が落ちる他に、壁紙を余計に延ばして後の目開きの原因にもなります。
- ・粘りの強い接着剤を使用すると、糊溜まりの原因になりやすいので注意してください。
- ・壁紙表面に接着剤をつけたまま放置しますと変色の原因になりますので、ただちに拭き取るようにしてください。

■養生・オープンタイム

- ・商品が硬めですので、接着剤塗布後は、うませ時間を 30 分程度とって作業を進めてください。
- ・タタミジワを防ぐため、糊付け後は必ず大きくたたんで上積みは避けてください。

■なで付け・ジョイント

- ・なで付けは横方向には行なわないようにしてください。材料を引っ張ってしまうことになり目開きの原因になります。
- ・ジョイントは突き付け施工をおすすめしますが、重ね裁ち（ダブルカット）を行う場合は、下地まで切り込まないようにしてください。目開きの原因となります。（壁紙と下地の間に下敷きを入れる、和紙テープを張り込む、といった注意が重ね裁ちの場合は必要です。）
- ・カッターは薄刃のものを使用してください。ジョイントが目立ちやすくなります。
- ・ローラー掛けの際は、ウレタン製のものを使用してください。壁紙表面のキズ付きを防止します。
- ・壁紙表面に接着剤等が付着した場合は、直ちにきれいな水で拭き取ってください。変色の原因になります。

■その他

- ・施工後は、外気や冷暖房などによる急激な室温の変化を避けるようにしてください。目開きやハガレ等の原因になります。
- ・壁紙表面に撥水加工を施しておりますので、汚れの拭取りは、きれいな水を含ませた布等で取り除いてください。